

東北縦貫自動車道関連公共事業
地内発掘予備調査概報

1 9 7 0

福島県教育委員会

ま　え　が　き

国土開発幹線自動車道建設法による東北縦貫自動車道は、南北115km、幅50mにわたって本県を縦断する計画のもとに、去る1月その起工式が行なわれました。

この建設工事に併行して、各地に圃場整備事業が計画されておりますが、これらの地域の埋蔵文化財を適正に保存するため、遺跡の所在調査ならびに発掘調査計画に必要な資料を得る予備調査を実施してまいりました。

この調査報告は、その結果をまとめたものであります。この調査のため、ご多忙のところ調査を担当された調査員の方々はじめ、調査にご協力いただいた地元市町村教育委員会・調査協力員・土地所有者各位に対して深く感謝の意を表します。

昭和45年3月

福島県教育委員会教育長

三本杉國雄

目 次

東宮古墳群跡	1
片面山遺跡	1
金山古墳	2
産土古墳群	2
大壇古墳	3
不動滝遺跡	3
北畠遺跡	4
久遠壇古墳	4
間尺遺跡	5
阿弥陀免古墳	5
壇古墳	6
供養壇遺跡	6
堂林遺跡	6
三本木遺跡	8
雷電前遺跡	8
浜田板碑	9
亀ヶ城遺跡	9
長者屋敷遺跡	10
清水遺跡	10
平山遺跡	11

東宮古墳群跡

- 1 遺跡の種別 古墳群跡、土師 須恵散布地
- 2 所在地 安達郡本宮町青田字西万風
- 3 調査担当者 小瀧 利意
- 4 遺跡の概要

帳付神社の東方 200 m の丘陵上とその南側傾斜地一帯より、土師、須恵の散布がみられる。丘陵上は全面的に開田化されてしまつて、遺跡の状態は不明であるが、傾斜面の畑には、巾 30 m 、長さ 200 m にわたって散布がみとめられている。故高橋丑太郎氏の調査によるとこの遺跡より、墨書きのある土師が出土しているといわれている。

この地域の中心部に、巾 0.3 m × 5 m のトレンチ 1 本と、 0.3 m × 1 m のトレンチ 9 本を設定したが、遺物の包含は少なかつた。

表土下 0.25 m の黄褐色土層の下に 0.05 m 厚さの黄色粘土層があり、この層に黒色土が混入しており、土器片、木炭、木灰が検出されている。

なお古墳群が以前あったといわれているが墳丘、内部構造は全くかわらず、その存在を確めるることはできなかつた。

試掘の結果、本調査の必要はない。

片面山遺跡

- 1 遺跡の種別 土師 須恵散布地
- 2 所在地 安達郡本宮町青田字片面山
- 3 調査担当者 小瀧 利意
- 4 遺跡の概要

帳付神社の西方 500 m の丘陵の東斜面から、開田時人骨の入った長胴形土師器が数個出土している。この斜面の低部は、水田、上部は野菜畑、果樹園となっている。水田化した土地より蓋のある土師器、木炭を敷いた上に人骨をおき、土師器をかぶせたものが検出したといわれている。

果樹園に 2 m × 1 m のトレンチを設定したが、遺物包含層の存在はみられなかつた。

なお土地所有地の遠藤芳房氏宅地内よりは、土師片・須恵器皿破片が採集されたが、斜面をけずり宅地にした際の混入かもしれない。

この遺跡は、開墾時破壊されたとみられ、本調査の必要はない。

金 山 古 墳

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所 在 地 安達郡大玉村大字大山字地藏堂
- 3 調査担当者 菅 原 文 也
- 4 遺跡の概要

安達太郎山の南東山ろくの東西に連鎖した台地上にあり、東北本線の西方、本宮町に隣接している。近くには産土古墳、馬乗地古墳等がある。

径 30 m、高さ 5 m の円墳であるが、墳丘の南部と西部が耕作によりけずりとられている墳丘上に桜の木が多数あり、大神宮碑がある。周囲は野菜畑として利用されているが、埴輪片が採集できる。今まで家型埴輪、朝顔型円筒埴輪（高さ 0.79 m）等が出土している。（福島県史考古資料図録 556～559）

台地上にあるので簡易整備事業より除外されると想われるが、仮に含まれる場合でも強力に

保存したい。周囲は畑地として利用されており、基部が耕作者により、けずりとられているので、早急に柵の設置を望みたい。



金 山 古 墳

産 土 古 墳 群

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所 在 地 安達郡大玉村大字大山字地藏堂
- 3 調査担当者 渡 辺 一 雄
- 4 遺跡の概要

金山古墳との一連の古墳群で、ここには二基の円墳がある。一つは三波神社を祀るかなり大きいもので、直径 30 m をこし、墳丘上に神社が建っている。もう一つは、円墳の墳丘をけずり、産土神社が安置されている。墳丘をかなりけずっているので、内部遺構も失なわれているのではないかと思われる。径 20 m 弱で低い台地上をなし、周囲の畑より埴輪片の散布がみられる。

ともに神社が祀ってあるので、関連事業地域より除外されるものと思われる。

大 壇 古 墳

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所在地 安達郡大玉村大字玉の井字大塙
- 3 調査担当者 菅原文也
- 4 遺跡の概要

安達太郎山の南東山ろく、玉の井小学校西方の台地上にある。現在桑畑に利用されており、墳丘頂部の封土も流失はげしく、原形をとどめず墳丘の形態ははっきりしていないが、円墳と思われる。現在径 18 m、高さ 1.5 m を計測することができる。故高橋丑太郎氏の調査によれば、土師器片、鉄製品が出土している。

不動滝遺跡

- 1 遺跡の種別 土師散布地
- 2 所在地 安達郡大玉村大字玉の井字不動滝
- 3 調査担当者 菅原文也
- 4 遺跡の概要

堂林遺跡の北東約 100 m にあり、50 m × 20 m の畠より土師の散布がみられる。散布は東に多いが周辺の地形からみると、開墾時に遺跡の西方高台が削平され、その時に堆積されたものと思われる。従って遺跡は西方高台に存在すると考えられるが、宅地になっており確認はむずかしい。

予備調査では、西方の高台に東西 1 m × 5 m のトレンチを設定し調査する。西で 0.6 m、東で 0.85 m で地山に達し、遺物包含層は確認できなかった。表土下 0.2 m の厚さに黒色土層があり、その下 0.4 ~ 0.65 m に木炭片の含んでいる褐色土層があって、その下に地山である混練砂土層があった。

本調査では遺跡の西方高台の傾斜に直交してトレンチを設定する。中心部は 20 m × 10 m の地域と思われる。遺跡の東方は開墾時に盛土したところであり期待できないが、数個所にピットを入れてみる。

北 島 遺 跡

- 1 遺跡の種別 縄文散布地
- 2 所在地 安達郡大玉村大字大山字北島
- 3 調査担当者 小龍利意
- 4 遺跡の概要

杉田川の西南方に発達した微高地上とその北東部の水田地帯が散布地である。

特に象田目と草津川部落の中間の水田地帯に以前から多くの縄文土器の出土がみられ、現在も僅かではあるが疎などより縄文片が検出されているが時期を明確にすることの出来る資料はみられない。

この地域は開田時ブルドーザーにより整地されているので、包含量の存在を確認することは出来なかった。

この遺跡の北方、草津川部落南側の開田時に、故高橋丑太郎氏が子持曲玉を発見している。また炉跡も発見しているといわれている。現在では全地域が開田化されており、予備調査の結果では本調査の必要が認められない。

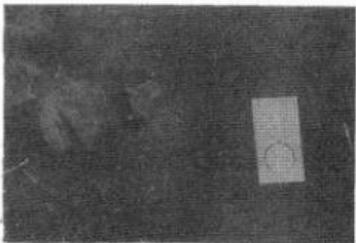
久 遠 墳 古 墳

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所在地 安達郡大玉村大字大山字仲島
- 3 調査担当者 小龍利意
- 4 遺跡の概要

大山小学校の西方300m、周囲よりやや高くなっている地域を久遠塚又は供養塚とよんでいる。

この微高地は150m×100mあり、土師・須恵の散布がみられ、この中心部は高さ1.5m、径13mの円形墳丘をなし、この墳丘上に五輪塔の一部と文化、天保、弘化年間の墓碑が数基ある。

墳丘の東方の畑に、3m×1mのトレンチを南北に設定する。表土下0.7mまでは、埴輪の破片がまばらに検出されるが、深さ0.7～0.8mにある黒色土層には円筒、形象埴輪片が多数発見された。



久遠塚古墳（円筒埴輪出土状況）

以前この近くにある公民館周囲より円筒埴輪の完形品が出土しているが、人物埴輪の発見がなかった。今回の調査では、人物埴輪の腕の部分が出土している。

本調査は、中心部 $50\text{m} \times 50\text{m}$ の地域の測量と墳丘部、散布地に $2\text{m} \times 20\text{m}$ のトレンチ數本設定し、墳丘内部の調査、墳丘周辺の埴輪の配列調査を中心にしてみたい。

また土師・須恵包含状態を確認するためトレンチ十數本設定したいのでベルトコンベヤー、一輪車などが必要である。

特に散布地には、古墳跡があるのか、住居跡か予備調査では確認できなかつたので充分なる人夫と調査日程が必要である。近くに大玉村支所があるので、宿舎、遺物の保管場所などにも利用できる。

間 尺 遺 跡

- 1 遺跡の種別 土師散布地
- 2 所在地 安達郡大玉村大字大山字間尺
- 3 調査担当者 永山倉造
- 4 遺跡の概要

破損部落から平坦な台地が東にはり出した地域にこの遺跡があり、周囲を水田にかこまれた微高地約 50a にわたる畠一帯より、土師の散布がみられる。本調査は中心部 $100\text{m} \times 50\text{m} = 5,000\text{m}^2$ に $2\text{m} \times 20\text{m}$ のトレンチを東西に $10 \sim 15$ 本設定し、集落の発見につとめる。

近くにある大山支所を宿舎とし用具はベルコンと普通の用具で調査できる。

阿彌陀免古墳

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所在地 安達郡大玉村大字玉の井字境
- 3 調査担当者 永山倉造
- 4 遺跡の概要

大玉村役場東方、道路に接し南側にある径約 20m の円墳である。この古墳の東北隅に阿彌陀堂が建っている。このお堂造営時マウンドの一部がけずられている。

墳丘の中心部周辺から土師片の散布がみられるが、阿彌陀堂があるので工事区域より除外されるものと思われる。

壇 古 墳

- 1 遺跡の種別 古墳
- 2 所在地 安達郡大玉村大字大山字壇
- 3 調査担当者 永山倉造
- 4 遺跡の概要

本宮町に近く、東北本線の東側にある。一見自然の小丘であるが、北側に花崗岩の石室とみられる形のものがあり、また花崗岩の露頭も多数みられる。自然の丘陵をそのまま利用した古墳とみられる。故高橋丑太郎氏は、周囲の畑から円筒埴輪を採集している。

工事の進みと併行して実測図の作成、埴輪の検出、内部遺構の調査をしたい。

供養壇 遺跡

- 1 遺跡の種別 繩文散布地
- 2 所在地 安達郡大玉村大字大山字供養壇
- 3 調査担当者 永山倉造
- 4 遺跡の概要

この地域を通る東北縦貫自動車道敷地のセンターの東ゆるやかな台地の東端、杉田川に面した水田地帯にこの遺跡がある。

開田時に、多くの縄文土器が出土しており、現在でも群その他より、羽状縄文片が検出されている。散布は約 10 a におよぶが中心部 10 m × 30 m を全面発掘し、住居跡の発見につとめたい。

堂林 遺跡

- 1 遺跡の種別 土師・須恵散布地
- 2 所在地 安達郡大玉村大字玉の井字堂林
- 3 調査担当者 渡辺一雄
- 4 遺跡の概要

字堂林 72 伊藤安雄氏宅より、安達太郎川の河岸段丘までの間に土師、須恵の散布がみられる。散布地は約 40 a におよんでいる。中心部とみられる 20 m × 30 m の地域に、2 m × 30 m の

トレンチを数本設定し、住居跡の発見につとめ、そこを拡張したい。

堂林遺跡の予備調査の際に発見された土

師器、須恵器のうち、ここには、高台付環形土器の土師器の破片から図上復原して、図示した。いずれも壊部が欠損している。

1は、内黒で褐色を呈し、脚部裏側にロクロ整形痕が明瞭に認められる。底は無文のようであるが、中央部は壊部底の上・下ともやや凹んで薄くなっているようである。高台の端の接地する部分は、ななめに面取りのような整形の痕が認められる。

2は、内黒で褐色を呈し、脚部から底部全体にロクロ整形痕が認められる。中央部が1と反対に上下にやや厚みを増している。脚縁部も1と同様にななめに整形した為にできた角がついている。

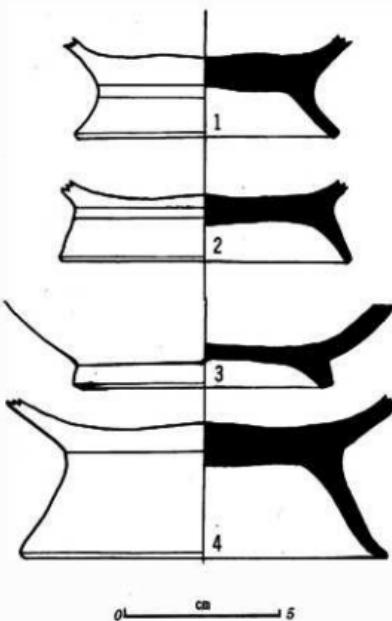
3は、やや薄手である。復原の余裕がなかった為、全体の復原実測図を掲げられなかったが、壊部口縁は極めてうすく、外反しまくれているようである。内黒で、壊部外面や底部にはロクロ痕がある。焼きは他より固い方で、黄褐色である。高台はあまり高くない。

4は、一番高台の部分が高い。内黒で、壊底部中央はやや凸になっている。脚部外面には、横に整形の細かい筋がわずかに走る。壊部と高台の部分をつなぎ合わせた跡が底面にわずかに残って見える。

ここに図示した4ヶのほかには、うすい土師器の壊が多い。底部はいずれも糸切底で、平底であり内黒である。變形土器の小破片があるが、口縁部は強く外側へ突出し、頸部は横に条痕が残る。

須恵器は、長颈須恵器壊の破片が數点あるが、復原すれば全体の形はわかる。ただし口縁部は欠けている。頸部と胸部は別々につくり、つなぎ合わせたことが裏側からわかる。あまり胸部は張っておらず、はがれてはいるが高台付きのようである。

以上のような土師器・須恵器群をみると、高台付や糸切痕の存在などから、時期は奈良時代までさかのぼることができず、平安時代初期のものと考えるのが妥当であろう。



堂林遺跡の高台付環形土器

三本木遺跡

- 1 遺跡の種別 縄文散布地
- 2 所在地 二本松市塩沢字三本木
- 3 調査担当者 小籠利意
- 4 遺跡の概要

塩沢小学校の西方にある田地岡遺跡のある丘陵の南方低地で、伊佐沼と字通坂より来る道路に挟まれた一帯の地域で東南に向ってゆるやかに傾斜し、水田化された土地までの畑一面に縄文の散布がみられる。

中心と見られるところを $1m \times 2m$ 、 $1m \times 1m$ の大きさのトレンチ、ピットを 8ヶ所試掘したがいずれも $0.5 \sim 0.7m$ ぐらいまで、長芋栽培のため深耕されており、表土下 $0.8m$ で地山に達しているが、遺物の包含は全然認められなかった。

この辺一帯の表面採集では縄文式土器前期前半のものが検出されている。なお近くの斎藤氏宅には表面採集した石匕 2 個と石錐多数が保存されている。

試掘の結果からは、この遺跡は耕作のため破壊されており、出土遺物もないので発掘調査の必要を認めない。

またこの散布地の南方の台地上には、多くの縄文の散布がみられ、以前多くの縄文の完形品を出土している。

雷電前遺跡

- 1 遺跡の種別 土師・須恵散布地
- 2 所在地 福島市信夫町大字平石字雷電前
- 3 調査担当者 田中正能
- 4 遺跡の概要

長者屋敷遺跡の南約 $1km$ 、南西に傾斜している丘陵にある牧草地、桑畠、麦畠一帯より、土師・須恵の散布がみられる。

この丘陵の畑を南北に 5ヶ所、 $5m$ 間隔に $0.6m \times 0.6m$ 、深さ $1m$ のピットを設定したが、いずれのピットよりも遺物、遺構が検出されなかった。最北のピットより、東へ L 字型に試掘抵抗を延長したところ、表土下 $0.15m$ で焼土塊とそれをとりまく、薄い灰土層が検出、灰土層内黒土師器片が混入されており、炉跡の一部が検出された。

本調査は、中心部 $50m \times 50m$ の地域に $2m \times 10m$ のトレンチ 2 ~ 3 本程度設定し住居跡の確認をしたい。

浜田板碑

- 1 遺跡の種別 板碑
- 2 所在地 福島市佐倉大字下名倉字浜田
- 3 調査担当者 田中正能
- 4 遺跡の概要

佐倉下旧田沼陣屋跡は桑畠となっているが、その東南端に田沼氏勧請の伏見稻荷が小さなお堂内に安置されている。このお堂の北側に二基の板碑がある。

一基は、キリーク（阿弥陀如来）で他の一基は阿弥陀種子三尊板碑である。

種子三尊板碑には「正安元年己亥十二月十七日」の紀年銘がみられる。この板碑については「福島県史」「福島市史」にも記録されており、使用石材は俗にいう「御山石」で石質が硬いためか、篆研影りは浅いが鋭い。

種子にも規格されない柔軟性があり、よく時代の特徴がみられる。

無紀年銘の阿弥陀三尊種子板碑も、筆法が正安板碑とよく似ており同年代のものであろう。阿弥陀如来、勢至菩薩、觀世音菩薩の來迎仏と淨土信仰をよくあらわし、使用石材は安山岩で福島市内の板碑でも初期に属するものである。

亀ヶ城遺跡

- 1 遺跡の種別 館跡・土師・須恵散布地
- 2 所在地 福島市吾妻町大字前鳥字亀ヶ城
- 3 調査担当者 田中正能
- 4 遺跡の概要

信夫小次郎居館の伝説のある亀ヶ城遺跡は古代の須川と荒川との合流点、この二川の氾濫原にある標高 100 m の小高い丘陵にある。現在果樹園、野菜畑、宅地になっている。

果樹園造成、家屋新築の際の土師・須恵の完形品、焼米など出土している。

館跡は、不規則な形であるが、約 2 ha にもおよび、外周には 8 ~ 10 m の周濠痕跡が確認される中世の平館跡である。

北西隅に 2 m × 3 m のトレンチを設定する。表土 0.2 m の下に 0.05 ~ 0.1 m の焼土、灰土層があり、それ以下は褐色粘土層となっている。この層より土師・須恵片が検出されている。

このトレンチの南に 1 m × 3 m のトレンチを設定したが、表土下 0.6 m で土師・須恵片の検出が

あった。

本調査は、測量を中心として記録保存を重点にし工事と併行して発掘調査をする。

発掘工程は測量、現状撮影、樹木伐採、抜根、柱穴および橋列の発見につとめる。

長者屋敷遺跡

1 遺跡の種別 土師・須恵散布地

2 所在地 福島市信夫町大字平石字長者屋敷

3 調査担当者 田中正能

4 遺跡の概要

福島盆地の南西隅、吾妻山系の山ろくの突端部、平地に接する小さな丘陵上の西側にある。この遺跡は約 1,000 m² にわたって、土師・須恵の散布がみられる。

現在桑畑、野菜畑などになっているが、中心部とみられる桑畑 0.1 ha を南北に 5ヶ所 0.5 m × 0.5 m、深さ 1 m のピットを設定したが遺物、遺構はみられなかった。

今後工事進行中遺構の発見があれば、本調査をすることにしたい。

清水遺跡

1 遺跡の種別 繩文散布地

2 所在地 福島市松川町大字関谷字清水

3 調査担当者 田中正能

4 遺跡の概要

俗称、イソクボとよばれ、吾妻、水原山系ののびた小さな丘状台地上の水田地帯の西方にある遺跡で 1 ha にわたり縄文が散布している。地下の粘土層中より、石英、石灰岩の異形の小型石塊が出土しているが、旧石器に類似した石器も検出されている。破碎面、打碎面の痕跡ある石器はないが注目すべき遺跡であろう。圃場整備工事や東北縦貫自動車道の土取場ともなれば調査も必要であろう。

平山遺跡

- 1 遺跡の種別 繩文散布地
- 2 所在地 福島市松川町開谷字平山
- 3 調査担当者 田中正能
- 4 遺跡の概要

水原山系の突端部にある平山部落の東南にある遺跡で、現在麦畑、野菜畑となっている。約1haにわたる畑より、縄文中期以降の土器片、石匕、石槍、石鎌、石斧などが検出されている。

以前の開墾時には、炉跡にあったとみられる焼石もあり、住居跡の存在も確認されている。

本調査は $1\text{m} \times 10\text{m}$ のトレンチ3~4本設定し、住居跡が発見されれば、その場所を拡大したい。
畑なので、普通の用具とベルコンがあれば調査できる。

東北縦貫自動車道関連公共事業地内遺跡一覧

1. 西白河郡西郷村

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
西 1	下西平遺跡	小田倉字下西平	散布地	田	鈴木貞三氏宅(大字小田倉字下西平)西方80mの水田:石器、繩文出土

2. 郡 山 市

郡 1	上牛庭遺跡	安積町字上牛庭	散布地	畑	鈴木英夫氏宅(大字上牛庭)前の畑:繩文、土師出土
-----	-------	---------	-----	---	--------------------------

3. 安達郡本宮町

1953	宮下遺跡	仁井田字宮下	散布地	畑	宮下部落西方の台地:石器、土師須恵出土
1952	寺下遺跡	仁井田字寺下25	"	"	寺下部落より五百川岸の間:石器繩文出土
1960	五百川遺跡	荒井字新介	"	"	国鉄五百川駅付近:土師出土
1941	片面山遺跡	青田字片面山	"	田畠	帳付神社西北:開田時土師出土
1939	東宮古墳群	" 西万風	"	"	帳付神社東方200m:墨書き土師器出土、墳丘確認できず、墳跡
1937	孫市遺跡	" 大師堂66	"	宅地	孫市町営住宅南:土師須恵器住宅建設時出土

4. 安達郡大玉村

1980	供養壇遺跡	大山字供養壇	散布地	田	字高久佐々木平一氏宅東方の水田:繩文晩期の土器出土
1979	北島遺跡	" 北島	"	"	供養壇遺跡の南200m:繩文前期の土器出土

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
1978	天 岩 遺 跡	大山字天岩	散布地	田	北畠遺跡南方 400 m の水田、土師後期の出土
1977	藤 ノ 木 遺 跡	〃 稲山	〃	〃	大山小学校北の水田：土師出土
1985	仲 ノ 内 前 遺 跡	〃 大志茂	〃	〃	大山小学校北東約 300 m 仲ノ内部落東方の水田：弥生、土師、石製模造品出土
1972	谷 地 古 墳	〃 谷地	古墳群	田畠 宅地	大山小学校敷地：マウンドはないが主体部は地表下らしい、埴輪出土
1988	破 橋 遺 跡	〃 破橋	散布地	田畠	破橋部落の東 200 m の水田と畑との間：弥生、土師、住居跡、軽車出土
1984	久 途 墓 古 墳 群	〃 仲島	古墳群	畠	大山小学校北西約 150 m の畠：土師埴輪片出土
1997	玉 貢 遺 跡	〃 玉貢	散布地	〃	菊地吉右衛門氏宅（字玉貢、東北本線西側）の東の畠：弥生土師、須恵出土
大 1	仲 島 遺 跡	〃 柿崎	〃	田	柿崎部落南方 200 m の水田：開田時弥生住居跡、土器、石器出土
大 2	諸 田 遺 跡	〃	〃	畠 宅地	旧国道大山農協倉庫西 300 m にある諸田部落土神、三渡神社付近：土師須恵出土
大 3	壇 古 墳	大山字壇	古 墳	山林 畠	東北本線の東側、大玉と本宮町の境の小丘：石室露出、埴輪出土
1991	金 山 古 墳	〃 地蔵堂	〃	山林 畠	東北本線西方本宮との境：弥生、埴輪出土、（家形埴輪）、近くに馬糞地古墳がある
1992	産 土 古 墳 群	〃	〃	山林 宅地	金山古墳西方 100 m の台地上、埴輪出土
1996	領 城 古 墳	〃 愛宕 10	〃	山林	大玉村東端旧国道と阿武隈川の間：全長 42 m 、高さ 5 m の前方後円墳、陪塚あり
大 4	山 崎 遺 跡	〃 山崎	〃	畠	大河内伝次郎氏宅周辺の畠：大きい縄文土器片出土する。焼石、焼土も併出している

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
大 5	上 の 台 遺 跡	大山字中林	散布地	烟	くぬぎ山丘陵東端上の台墓地の周辺の烟：繩文、土師出土
2008	六社山古墳群	〃 六社山	古 墳	〃	大山中学校南、岳温泉への県道南（忠霊塔）付近に円墳2基ある。径10m高さ1m
2005	花 林 古 墳 群	〃 花林3	〃	〃	大山小学校北西台地に2基の円墳径10m高さ1m、周辺より土師須恵片散布している。
大 6	館 遺 跡	玉の井字館168	散布地	〃	玉の井城跡といわれており一部に濠跡が残っている。周辺より土師繩文片散布している
大 7	柳 内 遺 跡	〃 東町15の1	〃	〃	竹田鳥藏氏宅南の烟一帯に土師、須恵片が散布する。
大 8	堂 林 遺 跡	〃 堂林72	〃	〃	大玉村の東南、本宮町との境近くにあり安達太郎川の両岸段丘の烟繩文、土師、須恵散布
大 9	不 動 瀧 遺 跡	〃 不動瀧	〃	〃	堂林遺跡の北方100mの烟（渡辺和夫氏宅南）繩文、土師散布
大 10	三 島 遺 跡	大山字新三島	〃	田	現在水田になつており土師片の散布少ない
大 11	行 屋 遺 跡 A	〃 行屋7	〃	烟	大玉村役場北500mの烟：土師出土
大 12	行 屋 遺 跡 B	〃	〃	〃	大山中学校南の丘陵の烟：土師散布
大 13	前二子塚遺跡	〃 小次郎内51	〃	〃	二子塚古墳の東にあり土師片散布
2012	住 吉 遺 跡	〃 住吉7	〃	〃 宅地	緩傾斜の台地で烟になつてゐる：土師散布
大 14	長 潤 遺 跡	〃 長潤	〃	田	開田時、多くの住居跡と土師器が出土しているが、現在散布はみられない。
2022	大 壇 古 墳 群	〃 大壇163	古 墳	烟	玉の井小学校裏山の丘上2基の円墳現存、近くの1基より土師器、鉄片出土している

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	地 目	遺 跡 の 概 要
大 15	阿弥陀免古墳	玉の井字境	古 墳	烟	径 20 m の円墳があり、土師器片散布している

5 福 島 市

2093	清 水 遺 跡	松川町閑谷字清水	散布地	烟	開田時土師出土
2095	赤貝森遺跡	〃 小池字赤貝森	〃	〃	縄文、須恵出土
福 1	信夫隠遺跡	〃 平石字信夫隠	〃	〃	福島交通祐場バス停留所東方：焼石、焼土出土
2109	雷電前遺跡	〃 字雷電前	散布地	〃	雷電前 10 付近の烟、土師、須恵出土
福 2	長者屋敷遺跡	〃 字長者屋敷	〃	〃	雷電前の墓地と平石神社の間、土師出土
福 3	浜 田 板 碑	吾妻町字浜田	板 碑	〃	稚荷神社境内にある。正安元年己亥(1299)の年号あり
福 4	亀 ケ 城 遺 跡	〃 前島字亀ヶ城	館 跡	〃	国道 115 号線浜田部落北 500 m 土師、須恵出土、館跡と思われる。

◎新発見の遺跡の遺跡番号には、仮番号を付してあります。

あ　と　が　き

東北縦貫自動車道の建設工事計画に併行して、西白河郡西郷村、安達郡大玉村はじめ自動車道沿線各地の市町村で、圃場整備計画がすすめられ、その一部は本年度より工事が行なわれています。

この中で昭和45年度中に工事が実施される地域の遺跡所在調査・予備調査を行ないました。

これらの地域の遺跡総数は46を数え、このうち予備調査を実施した遺跡は20か所あります。この調査に動員された延人員は県関係・調査員・調査協力員・地元地教委関係・人夫合わせて144人調査延日数は43日を費やし、調査に400,000円を要しております。予備調査は、坪掘り程度の部分調査を主に行ないましたが、ところによつては地主の承諾がなく、充分な資料が得られないところもありました。

東北縦貫自動車道開連公共事業地内

埋蔵文化財調査員名簿

氏　名	住　所	所　属	備　考
田 中 正 能	郡山市赤木町 247	国鉄郡山機関区	福島県文化財専門委員
小 滝 利 意	会津若松市門田町黒岩丙 63	会津若松市役所観光企業課	日本考古学協会員
渡 辺 一 雄	いわき市平泉崎字辻道 20	いわき市立草野中学校	〃
永 山 倉 造	須賀川市北町 72	須賀川市教育委員会	発掘技術者研修会修了
菅 原 文 也	いわき市平根治町 22	いわき市立第一小学校	〃